

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
撞木町			
しゅもくちょう	五軒町3丁目6番地先角（元水戸バプテズ教会前）	S62.1	山内 光雲
S42.5			
<p>藩政初期に武家屋敷地とされ、元禄三年（一六九〇）に町の形が丁字型で、鐘をつく撞木のような形であったことから、撞木ノ辻と名付けられたという。</p>			
白銀町	本町3丁目1番2号	H1.2	吉澤 鐵子
しろがねちょう			
S55.1			
信願寺町	泉町3丁目4番18号	S63.2	山内 秋紅
しんがんじちょう			
S42.5			

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
新町			
城東3丁目127の3番地	H1.2	安 有倫	
しんまち			
S55.1			
藩政初期の寛永年間（一六二四～一六四四）本町通りに続いて開かれた町屋で、下新町とか新通町とも呼ばれた。岩城街道筋にあたり、一丁目から六丁目まであった。			
鈴坂町	梅香2丁目3番地先	S62.1	荘司 漱雲
すずさかちよう			
S41.3			
藩政時代常葉村の一部であったが、明治二十二年市制施行により鈴坂町となる。釜神町へ上る坂が元禄三年（一六九〇）に鈴坂と名付けられたことに由来する。			
砂久保町	新荘1丁目5番65号（砂久保町児童公園内）	S61.3	菊池 遊魚
すなくぼちよう			
S43.4			
藩政時代には常葉町の一部で、青川の浸蝕谷の窪地であったことから砂窪と呼ばれていた。昭和八年に水戸市に合併し、翌年に水戸市砂久保町となった。			

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
銭谷前			
ぜにやまえ	本町3丁目6番7号（裡5丁目児童公園内）	S61.3	楊 希風
S55.1			
寛永のころ、銭谷稻荷の地で鑄銭が行われ銭屋という地名ができた。その前が銭谷前という浜田村の小字名となり、明治二十二年市制施行に当り水戸市に編入された。			
代官町	城東2丁目5番2号	S63.2	武藤 海雲
だいかんちょう			
S45.4			
藩政初期に武家屋敷地とされ、もとは外川崎と呼ばれた地域の一部である。元禄三年（一六九〇）に代官町と名付けられたのは、それ以前に代官職の屋敷があったためといわれる。			
鷹匠町	南町3丁目2番26号地先	H1.2	荘司 漱雲
たかじょうまち			
S41.3			
藩政初期の元和二年（一六一六）この地にあった寺院を寺町などに移し、跡地に鷹部屋を設け、鷹師の居住地としたため鷹匠町と呼ばれた。			

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
高橋町			
白梅4丁目3490-14番	H1.2	楊 希風	
たかはしちょう			
S51.1			
大正十四年、高橋氏が千波湖の一部の払下げを受け、二十四年かかって埋立て宅地化した。昭和二十四年十一月、この地が吉田村から水戸市に編入されたとき高橋町が新設された。			
竹隈町	東台1丁目2番地先（「竹隈町」バス停先歩道）	S61.3	川又 南嶽
たけくまちょう			
S55.1			
「たけくま」は、中世の記録にも出てくる古い地名で、もとは武熊とも記された。佐竹氏の時代までは、城館があった。徳川時代になって武家屋敷となる。			
立浪町	水戸市城東4丁目3番14号地先	S63.2	河野 虚堂
たつなみちょう			
S45.4			
藩政初期の寛永二年（一六二五）ころに開かれた武家屋敷地で、元禄三年（一六九〇）に立浪町と名付けられた。那珂川の水辺に近かったのに由来するといわれている。			

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
田見小路			
たみこうじ	北見町8番8号 (NTT 前植え込み)	S62.1	関谷 寿石
S41.3			
<p>文禄元年(一五九二)に移建された八幡宮がもとで、八幡小路と称された。この地の藩主別館が宝暦十一年(一七六一)田見御殿と名付けられたため田見小路となる。</p>			
鉄砲町	五軒町1丁目2番12号(みと文化交流プラザ前)	S61.3	関谷 寿石
てっぽうちょう			
S42.5			
<p>藩政初期は武家屋敷で、砲術家や鉄砲師等の居住地とされ鉄砲町といわれた。元禄のころには鉄砲師等は神崎に移り、町家になったが町名は残った。</p>			
寺町	金町3丁目2番25号地先 (五軒小学校前)	S61.3	関 南沖
てらまち			
S42.5			
<p>藩政初期、寺院が数多く集められ寺町と呼ばれたが、延宝年間にはそれも他へ移され武家屋敷となり、元禄三年「本寺町」と名付けられた。のちに寺町となった。</p>			

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
常磐小路			
ときわのこうじ	新荘3丁目2番地先（山本製館所横）	S62.1	桐原 浩雲
S43.4			
<p>天保七年（一八三六）九代藩主徳川斉昭が、江戸住の家臣に国元帰住を命じて開いた新屋敷の一部である。各小路には樹木の名が付けられた。</p>			
轟町	柳町1丁目7番2号（伊奈神社境内）	H1.2	深見 子浩
とどろきちょう			
S51.1			
鳥見町	泉町3丁目1番10号地先	S63.2	山内 香鶴
とりみちょう			
S42.5			